

平成30年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 穴生 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、平成30年6～7月に、5年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部です。

1. 調査の目的

- (1) 子どもの体力等の状況に鑑み、国が全国的な子どもの体力の状況把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各公立学校が全国的な状況との関係において自らの子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各公立学校が各児童の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

(2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市・本校の実技調査の結果

<男子>

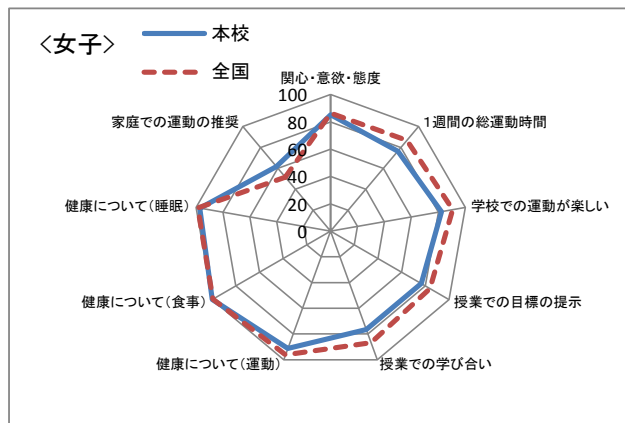
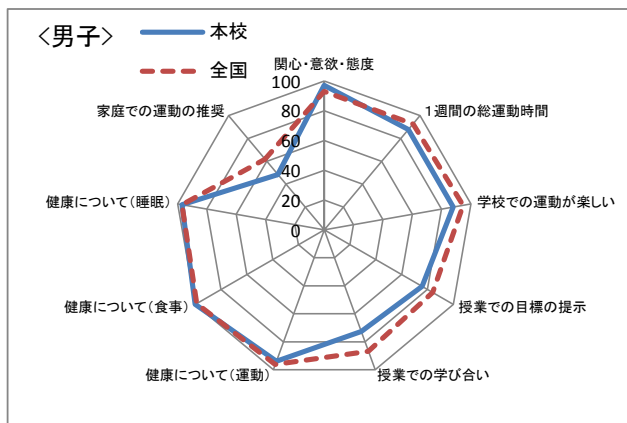
本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.54	19.95	33.31	42.10	52.15	9.37	152.24	22.15	54.21
本市	16.69	20.49	33.79	42.59	55.22	9.38	154.29	23.74	55.23
本校全国平均以上の種目		○				○	○	○	○

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.15	18.96	37.62	40.32	41.88	9.60	145.94	13.77	55.90
本市	16.24	19.41	37.96	40.62	44.39	9.61	147.43	13.93	56.64
本校全国平均以上の種目	○	○	○	○	○	○			○

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

男子は「運動やスポーツが好き」「健康であるために食事が大切である」、女子は「健康であるために食事は大切である」家の人から運動やスポーツを積極的に行うことをすすめられることがある」という領域については全国平均を上回っている。しかし、男子は「ふだんの体育・保健体育の授業では、友達同士やチームの中で話し合う活動を行っていますか」「家の人から運動やスポーツを積極的に行うことをすすめられることがある」、女子は「学校の体育の授業時間以外でも運動やスポーツを行っている」「ふだんの体育・保健体育の授業では、友達同士やチームの中で話し合う活動を行っていますか」という領域については、全国平均よりも10ポイントも下回っている。健康であるために食事が大切ということは分かっているが、運動習慣や授業での話し合う活動の取組がまだ不十分である。児童や家庭への啓発活動及び授業改善の必要性が考えられる。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

実技調査の結果からは、昨年までの実態等と比べると、男女とも体力的には向上していることが分かる。これは、25分間以上の運動量を確保して授業に取り組んだ成果と考える。しかし、質問紙調査からも分かるように、ペアやグループ等での話し合う活動が十分になされているとは言えない。授業場面の多くに話し合う活動を取り入れることで、目標ができ、やる気が出てくるものと思われる。それが、成果となり次の活動への意欲となるであろう。主体的な活動を目指して、話し合う活動を充実させる。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

1校1取組として、縄跳びカードや持久走カードを配布し、各学年に応じた運動を行った。また、児童による主体的な「応援団」が組織され、ランニングタイムの設定、呼びかけがなされた。これらの取組で、多くの児童が休み時間に運動場で遊び、縄跳び等にも取り組んでいる。しかし、質問紙等によると運動習慣は十分とは言えない。上記のような授業改善とともに学校だより、学年通信等による保護者への啓発を行いたい。